

「ファミリーふれあい体験 in A S O」

- [主催] 国立阿蘇青少年交流の家
 [期間] 1回目：平成21年6月 6日（土）～ 7日（日）1泊2日
 2回目：平成21年6月13日（土）～14日（日）1泊2日
 [会場] 国立阿蘇青少年交流の家及び竹原牧場（周辺施設）
 [参加状況] 1回目： 90名
 2回目：159名
 [講師] 大分県教育委員会社会教育課 馬場 尚登 氏



1 趣 旨

当交流の家が有する施設・設備を活用した体験活動の機会を提供することにより、身近な青少年教育施設としての存在や教育機能に対する理解を深めるとともに、近隣施設を活用した動物ふれあい体験をとおして、家族やグループの交流を図る。

2 目 標

- (1) クッキー作りや動物ふれあい体験をとおして親子のふれあいを深める。
- (2) クッキー作りや星空観察等、施設の特色を生かした活動を行い、ファミリーや小グループでも利用できることを知らせることで利用促進につなげる。



3 事業の実際

(1) 研修プログラム

	午 前	午 後	夜
1 日 目		クッキー作り	晴：星空観察 雨：DVD鑑賞 レクリエーション
2 日 目	竹原牧場での活動 (動物ふれあい体験及び動物探検クイズ)	解散	

(2) 目標達成のための工夫点

- ① 阿蘇のフィールドを生かした自然体験活動の実施
 小・中学生の夜の活動を充実させるため、天体望遠鏡を20台購入した。阿蘇の大草原に寝ころんで星空を眺めたり、天体望遠鏡を使って月のクレーターを観察したりすることとおして、自然に興味をもたせるようにした。



② 施設の特徴を生かした活動を行い、利用促進につながる工夫

平成20年にキャンプ場にピザ釜を製作した。直径20センチほどのピザを一度に9枚焼くことができる大きさである。今回は、そのピザ釜を利用して大人数でのクッキー作りの活動を取り入れた。また、ピザ釜を活用した活動だけではなく、キャンプ場の宿泊利用方法も含め広報を行った。



クッキー作り

③ 近隣施設を活用したプログラムの活用

本施設の周辺には、「乗馬体験」「カヌー体験」「パラグライダー体験」「ブドウ・イチゴ・リンゴ狩り」等の体験活動が行える民間施設が充実している。また、阿蘇の自然案内を行うエコツーリズムや阿蘇の町並み・温泉街を散策するタウンツーリズム、農村・集落体験を提供する民間団体も少なくない。これらの民間施設や阿蘇を一つのフィールドとした団体と連携・協力することによって、充実した活動を利用者へ提供することができると思う。

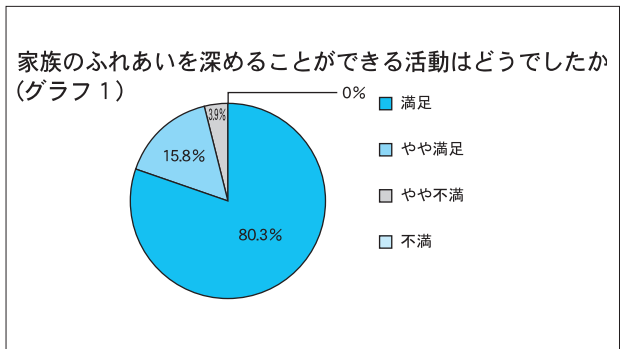
そこで、今回は、寒さが厳しい時期の活動や子ども会、ファミリー、小グループへのプログラム提供の視点を含め「牛の乳搾り体験」「手作りバター作り体験」ができる民間施設を利用した活動を取り入れた。



バター作り

4 結果（アンケートを含む）

(1) 家族のふれあいを深める事業として、本事業はどうでしたか。



- 家族のふれあいのテーマに沿って充実したプログラムでした。子どもたちと、とても楽しめました。
- 普段感じることのできない自然体験とクッキー・バター作りなどの活動は子どもたちが目を輝かせていました。みんなと協力して集団で行動するおもしろさもあったようで、とてもよかったです。
- テレビのない生活もとても素敵な時間でした。

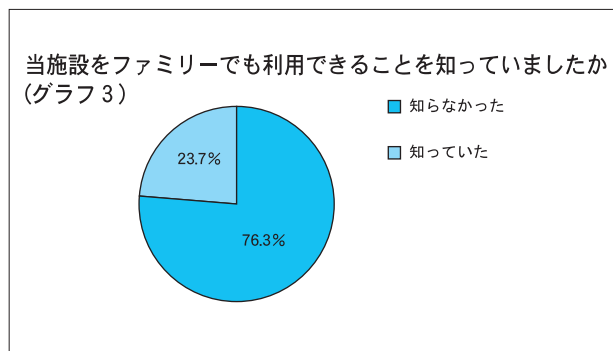
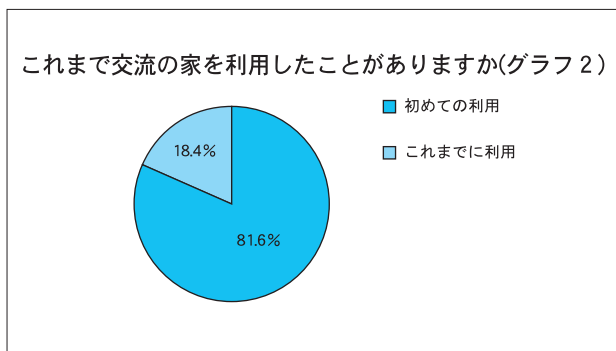


動物クイズ

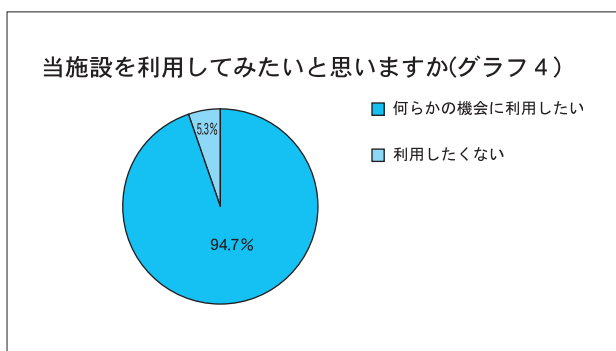


なわとび

(2) これまで当施設を利用したことがありますか。また、当施設をファミリーでも利用できることを知っていましたか。



(3) 今後、当施設を利用してみたいと思いますか。



- 普段、家族単位では味わえないようなことができてよかったです。団体行動に慣れていない分、多少疲れましたが、また参加したいです。
- 子どもたちに規則正しい生活と自然体験活動をさせることができたととても有意義でした。

(4) その他、参加者の意見

- 活動内容は「自分で(主体的に)」という部分がありつつもボランティアの支援があり、子どもたちと楽しい時間を過ごすことができました。
- 朝のつどい、夕べのつどいはとてもうれしい行事でした。参加できてよかったです。
- 職員・ボランティアの笑顔やあいさつがよかったです。
- 子どものしつけが家庭により様々だと思いました。大人のマナーが問われると思いました。
- 乳幼児用のおむつがえ室があるといいです。(浴室・トイレ)
- 星空観察が雨天のためできなくて残念でした。(1回目)

5 成果と課題

(1) 成果

「やや満足」を含めて96%の参加者から事業全体をとおして親子のふれあいを深められたとの回答を得ることができた。(グラフ1) 要因としては、普段の生活では体験できない自然体験や動物ふれあい体験、クッキー作り等の活動や家庭とは違う環境での生活が家族やグループのふれあいを深めることにつながったのではないかと考える。

今回、初利用者の割合は約82%であった。(グラフ2) また、本施設をファミリーで利用できることを知らなかった方も75%を超えている。(グラフ3) このことより本施設の認知度は高いとはいえないが、本事業をとおして、



90%以上の方が何らかの機会に本施設を利用したいと答えている（グラフ4）ことから、本施設の意義や利用法について理解していただき、今後の利用促進につながるよい機会であったと考えられる。

（2）課題

- ① 親子のふれあいを深める取組として、民間施設を利用した活動を取り入れたプログラムを実施した。今後とも、民間施設や阿蘇を一つのフィールドとした団体と連携・協力することによって、充実した活動を利用者へ提供することができると考える。また、本施設としても幼児向けやファミリー向けのプログラム開発を行う必要がある。
- ② ファミリーや小グループ等の受入を促進するにあたって、日帰りの受入や部屋移動後（退所後）の活動を含め、授乳室やおむつ替えの場所確保、浴室への小児用ベッド（着替え用）のハード面の設備を整備することが必要となってくる。



6 まとめ

本年度は、ファミリー向けのプログラム開発という視点も含めて親子のふれあいを大切にしました内容で実施した。来年度は、幼児期からの「基本的な生活習慣の大切さ・自己肯定感を育む子育て」という点にも視点を置いた内容にしていきたい。